



たちかわ けいじ

第21回 2005年度 高柳記念賞

立川 敬二 氏

### 「通信方式の高度化ならびにその推進に関する業績」

#### (1) デジタル無線通信、VI & P 構想に関する研究開発

無線パルス符号変調(PCM)の開発に当初から関わり、無線 PCM 方式の実現において必須となる無線回線設計法の確立に優れた業績を挙げられました。この無線回線設計法は、ITU(国際電気通信連合)の発行するハンドブックにも世界標準として採用されるなど標準化にも積極的に貢献されました。

平成2年には、高度通信サービス事業の実質的な推進責任者として ISDN の基本構想に着手し、ネットワークのデジタル化の普及・促進に多大な技術的貢献と強力な指導力を発揮されました。さらに、電気通信事業に対する卓越した先見性と深い洞察力を有する立川氏は、21世紀のサービスビジョンを Visual Intelligent and Personal キーワードとして技術の発展を先導する形で作成し、2005年をターゲットとする VI&P 構想としてまとめられました。これらの業績に対し、平成5年にテレコム社会科学賞奨励賞を受賞されました。

さらに、移動通信サービスにおいては、第1世代移動通信方式(アナログセルラー)、第2世代移動通信方式(デジタルセルラー)の開発にあたって、その抜群の統率力、指導力により、開発から実用化に至るまでの総責任者として無線分野のみならず、ネットワークを含めた他の技術に多大な技術的貢献をされました。

#### (2) 第3世代移動通信方式ならびに i-mode の実用化

平成9年に NTT 移動通信網株式会社の代表取締役副社長に就任後は、次世代移動通信方式(IMT-2000)の開発総責任者として、標準化のための国内外との調整に邁進されました。これにより、欧州との間で日本案をベースとした無線インタフェースが合意に至り、平成12年5月のITU無線通信総会において、世界標準方式の一つとして承認されることとなりました。その他、多大な技術貢献と卓抜した指導力により IMT-2000 システムの技術的基盤が確立されました。

また、モバイルインターネットの提案を行い、新しいビジネスモデルのもとで、パケット移動網を利用して携帯電話からインターネット接続を可能とする携帯電話サービス「iモード」を世界で初めて実用化されました。これにより、モバイルマルチメディアの急速な普及、発展が促進されました。

これらの功績は、世界的に評価され、平成12年及び平成13年には、Business Week 誌の“The top 25 managers of the year”に選出されています。

### (3) 学会・政府関連活動

電子情報通信学会ならびに米国 IEEE においては、平成 8～9 年度東京支部長を務められ、電子情報通信の学術振興並びに本会の発展に尽力され、その功績に対し、多くの賞を受賞されております。

また、社団法人日本オートメーション協会理事、宇宙開発委員会委員を歴任され、宇宙開発の発展など、幅広い分野で我が国の科学技術の発展に貢献されております。

更に国家戦略の e - Japan 戦略において、「就労・労働」分野の目標であるサテライトオフィス、テレワークの普及促進への尽力など、様々な分野の発展に寄与されております。

このように、産業界および学会活動に加え、政府関連の活動にも幅広い貢献をされております。

**経 歴** 1939 年生まれ

**学 歴** 1962.3 東京大学 工学部電気工学科卒業

1978.6 米国マサチューセッツエ科大学 経営学部修士コース修了

1981.7 工学博士の学位取得(東京大学)

**職 歴** 1962.4 日本電信電話公社

1987.11 NTT アメリカ社長

1998.6 エヌ・ティ・テイ移動通信網株式会社

(現 株式会社エヌ・ティ・テイ・ドコモ) 代表取締役社長

2001.12 宇宙開発委員会委員(非常勤)

(2004.11 退任)

2004.11 独立行政法人宇宙航空研究開発機構 理事長

### 受賞歴

Business Week The 25 Top Managers(1999 & 2001)

IEEE ComSoc New Millennium Award(2000)

Fortune Asia's Businessman of the year (2001)

IEEE ComSoc Award (2003)

電子情報通信学会 功績賞(2003)